

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム 「和らぎ」「歓び」

日付 平成19年3月19日
特定非営利活動法人
評価機関 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 老人保健施設介護実務経験6年
居宅支援事業所介護支援専門員経験6年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

設立して3年経過した平成18年度後半は、このグループホームにも一つの節目を迎えたことになる。人生にとっても、事業にとっても、この節目は重要な時でもあり、管理者も十分認識して、これからのホームの運営に対する決意を聞かせてもらった。

利用者の退去は比較的少なく、このホームに馴染んでいる人も多く、家事の手伝いや散歩をしたり、母体の病院にリハビリに通ったりして、その人なりに自分の身体機能維持に努めている。しかし以前に比べると精神状態や身体機能の衰えは進んでいるなと3年間お付き合いしている私の目にも分かる。

職員も、昨年は管理者を始め比較的多い職員が退職した。事情は兎も角、正職員で構成するホームとしては、これも一つの節目なのかと思う。

このような事を背景として、管理者にマネージメントの中で最も重点的に考えている事を問うて見ると、ケアマネージメントでは、「利用者の個別の希望や意志にどのように対応するか」という認知症ケアの原点をあげた。その人の希望や意志を叶えてあげることは普通の生活の活力を養うことであるし、それぞれの人の発信する気持ちや希望の大小を区別することなく、個々の希望に応じた支援を心掛けると管理者は言った。そして利用者への寄り添い体験研修を年1回は行うとのことである。また、ケアプランと記録についても、開設当初から日々の介護記録をしっかりと書くようにしてきた。記録は利用者の生活してきた証しでもあり、状態を知り、職員が情報を共有化するための源であるが、今後記録の仕方についてはもう一度検討してみたいと言った。管理者を筆頭に職員の研修も積極的に取り組んでいる。

グループホームを利用者本意で見た時に、利用者が安心して暮らせる最低限の条件は、職員が利用者の目線で心の中に飛び込んでくれている関係を築いてくれているかどうかと思う。このホームの職員の成長を期待したい。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

認知症ケアに対する心掛けや知識は十分に承知している管理者や職員であるが、今後認知症になってしまった方の集団の中で、自然なコミュニケーションが出来る術を身につけたホームになってもらえるよう期待している。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か</p> <p>“施設ではなく、普通の家の暮らしを大切にする”という基本的な考え方は設立当初から一貫した考え方である。個別の希望や思いをできるだけ実現してあげようとする管理者や職員の姿勢である。</p> <p>一方で、利用者の支えになるには、家族の絆であり、利用者にとっては安心して暮らせる大きな要素でもあるに違いない。利用者、家族、職員が三者の絆の構築こそ、利用者が共同生活をすると同時に個々のその人なりの暮らしが実現できる源であろうと考える。</p> <p>「看取りに関する指針」をつくり、看取りの支援を開始した。色々な条件が整ってのことであろうが、このグループホームで最期を看取れる体制をつくったことは心強い。</p>		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か</p> <p>建物や構築物の屋外の木肌も自然の風合となり、屋内の様子もすっきり生活者と馴染んだ落ち着いた雰囲気を出してきた。「和らぎ」の和風造りと「歓び」の洋風造りのそれぞれの家もすっきり利用者に定着したようだ。両ユニットにある集会機能を持った部屋も、両ユニット合同の催しや地域との会合にも活用しているし、今後は看取りをするために家族が宿泊したりできるのも便利になるだろう。</p> <p>外回りの広いスペースはデイサービスと共同して、地域との交流やふくだ村行事等、もっと日常的に活用できる企画もしていくと面白いスペースとなりそうだ。</p>		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のベースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		

一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か

食事を作る時に利用者の人々に作ってもらい、洗濯物を畳んだりする、テーブル等の掃除や片付けをする等、皆で仕事をするということや、買物に行ったり、外出したりリハビリに行ったりすることは、職員のお願いや誘いでできる人は身体を動かしているが、一人ひとりが独創的な行動をする事は殆んど出来なくなっている人が多いと考えられる。

日常生活は、リビングルームに集まって過ごしている事が多くなるし、利用者は皆と過ごすことを楽しみにしているので、ここからはこのような生活スタイルの中で、利用者の心を豊かにしてあげるには、個々又は全体でのコミュニケーションのとり方が大変重要なことではないだろうかと思う。当然、職員が利用者の輪に入って、コミュニケーションづくりをしなければならぬが、話題のきっかけづくりや話のつながりをつくる役割は職員にあり、その中に利用者からの言葉や仕草等を引き出していきながら、全体の話題や皆で話した喜びを利用者に感じ取ってもらえるような雰囲気を一日の中で少しでも作ってほしいと思う。

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		

記述項目 サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。

グループホームのサービス評価として、自己評価と外部評価をして3年目も終わろうとしている。本来ならば、ホームの理念や計画、ケアプランの作成や見直し、ケアマネージメントやリスクマネージメント等の事業所全体の運営業務に密着したサービス評価をしなければ、事業所にとって何のメリットもなければ効果もない。それを感じ取ってサービス評価に取り組んでいる事業所や評価機関がどれだけあるだろうか疑問を持っている私が、頑張っているこのホームのサービスの質の向上に向けたこの記入欄を借りて、敢えて全部の事業者や機関や行政に云いたい。お互いに連携してホームのサービス向上の為に一番活かさなければならないサービス評価についてしっかり考えてみようではないかと。